

## 「統合脳」5 領域 第 1 回総括班会議

日時:平成 16 年 8 月 10 日(火) 14:00~17:00

場所:東京国際フォーラム G604 会議室

出席者: 丹治 順、木村 實、狩野方伸、三品昌美、貫名信行、井原康夫、大森治紀、高田昌彦、伊佐 正、泰羅雅登、小松英彦、塚田 稔(欠席:山森哲雄、青木 清)

1. 丹治領域代表から、「統合脳」5 領域に関する審査委員会(郷 通子委員長)の講評が以下のように披露された。

「脳研究は他分野にとっても学際的であり、統合的研究を組織的に計画する意義は高い。支援班は、総合脳において十分な実績を上げたものを発展する形で企画されており、提案された組織化が十分に機能することが期待される。一方で、規模、カバーすべき研究領域、計画班員構成について、中間評価で十分な見直しを行い、本テーマの進展に常に対応する必要性が指摘された。」

詳細については、「統合脳」5 領域担当の学術調査官である東京医科歯科大学の柏 淳氏と生理学研究所の鍋倉淳一氏に、10 月 2 日に予定されている第 2 回総括班会議に出席していただき、その際に説明していただくことになった。

2. 丹治領域代表から、議題として(1)領域全体の組織と運営方針の確認、(2)年間活動計画の策定、(3)各種委員会委員の決定、(4)平成 17 年度特定領域研究審査員候補の決定、(5)16 年度総括班予算の支出、の 5 項目について討議することが説明された。

3. 領域全体の組織と運営方針の確認について

① 総括班と企画調整委員会を一体化させ、5 領域全体の活動の企画と調整を行う。すなわち、総括班は企画調整委員会を兼ねるため、今後は評価委員を除く総括班メンバーと各種委員会委員長で構成される。

② 総括班会議は、基本的に毎年 2 回、夏と冬の班会議の際に開催され、必要があればもう 1 回程度開催される。

③ 総括班の事務局は高田班員(東京都神経研)が担当し、領域間の連絡や総括班会議の開催について責任を持つ。

④ 企画調整委員会では、企画や人選などを含む、各種委員会の活動方針の基本的枠組みを決定する。それを受けて、各委員会が実際の活動に関する責任を持つ。

⑤ 夏と冬の行事については、夏はワークショップ、冬はシンポジウムを企画し、それぞれの開催時に班会議を行う。具体的には、17 年度から 21 年度までの 5 年間で 5 領域が順次、企画原案の作

成を担当する。すなわち、17年度は第1領域、18年度は第2領域、最終の21年度は第5領域が、夏のワークショップと冬のシンポジウムを企画し、企画調整委員会で検討する。夏のワークショップと冬のシンポジウムの開催については、実行委員会が責任を持って担当する。

⑥ 支援班を構成する研究リソース委員会、研究者育成・支援委員会、データベース委員会の活動についても、実務は各委員会が担当するが、その方向性は企画調整委員会で検討、把握する。

#### 4. 年間活動計画の策定について

① 夏のワークショップ: 領域間の連携を高めることを目的に開催する。年ごとにきわめて顕著な新展開が生ずる可能性があるため、そのような情勢をよく見極めながら、もっとも新しいテーマを取り上げる。400~500名を収容できる会場として、長野の松代ロイヤルホテルをとりあえず8月の盆明けに5年間分予約している。17年度は8月18日から21日までの3泊4日で、その間にワークショップ、班会議、サテライトシンポジウムを行う。企画内容の大枠については、10月2日に予定されている第2回総括班会議と、「先端脳」冬の班会議終了後の12月23日午後第3回総括班会議を開いて決定する。

② 冬のシンポジウム: 各領域における代表的な研究成果を発表する。毎年12月20日頃に、東京で班会議とあわせて2日の日程で行う。夏のワークショップ同様、400~500名規模のホールと中会議室(60~80名規模;4室)が必要なので、一ツ橋の学術総合センターを利用する方向で検討する(1年前に予約)。企画内容の大枠については、来年夏の総括班会議で最終的に決定する。

③ 班会議: 年2回、夏のワークショップと冬のシンポジウムの際に行う。計画班員、公募班員ともに年1回ずつ発表する。ただし、第1領域の班会議の開催要領については慎重に検討する。

④ サテライトシンポジウム: 第1及び第2領域に関係するものとして、従来から「脳と心のメカニズム」ワークショップが夏と冬に開催されており、今後も夏と冬の行事にあわせてサテライトシンポジウムとしての開催を予定している。サテライトシンポジウムは「統合脳」共催あるいは協賛で、その実施にあたっては支援班(研究者育成・支援委員会)が支援するが、5領域全体としてのバランスを考慮して、できれば来年度から他の領域が主催するサテライトシンポジウムも同時開催するか、少なくとも既存のものを「統合脳」に組み込む形で拡充していくことが望ましい。具体的な実施要領については今後の検討事項とする。

⑤ トレーニングコースや教育シンポジウム: 研究者育成・支援委員会が担当する。まず、生理研や神経回路学会、生理学会主催のトレーニングコースなど、現在確立している組織や活動を拡充、支援する形で積極的に進めていくのが効率的である。また、沖縄新大学院大学が主催する人工知能トレーニングコースへの参加や、海外のトレーニングキャンプへの派遣、外国人講師の招聘なども検討する。そのうち、オリジナルな企画を新規に実施する必要があると出れば、具体的に検討する。若手中心の研究会や研修会、シンポジウムの開催については、「統合脳」で行っていた形を発展さ

せることが望ましい。

⑥ 広報: 対外委員会が担当する。社会との接点が非常に強く要求されていることを考慮し、展示や講演を主体にして脳研究の進展を広く一般に伝えるための広報・啓蒙活動、「脳のひろば」を企画する。ゲノム領域が行っている「ゲノムひろば」を参考にして、「脳のひろば」を精力的に進める。2006年から2007年の2年間については、読売新聞社と脳の世紀推進会議がタイアップして、世界脳週間「脳の世界」展を全国的に開催することになっているので(2006年春に東京から始まって、北九州、名古屋、大阪など全国6会場で順次開催予定)、その催しに積極的に参画し、広くキャンペーンを行う。1~2週間に及ぶ大規模の展示会と講演会を企画する予定であるが、具体的な計画については、読売新聞社や脳の世紀推進会議など、各方面とじゅうぶん打ち合わせて、この機会をうまく利用できるように図る。

また、来年や2008年以降については未定であるが、世界脳週間とタイアップして、科学未来館などでのイベントを企画する等、対外委員会でじゅうぶん検討する。泰羅委員長から「神経科学学会や神経回路学会(いずれも9月)の際に展示ブースを出して、10月2日に開催される「統合脳」シンポジウムをアピールしたい」との要望があり、承認された。

⑦ ニュースレター: 領域内広報委員会が担当する。ホームページを最大限に活用し、あまり手間と経費をかけないように工夫する(特に、冊子とホームページの使い分けが必要)。16年度に関しては、10月2日の「統合脳」シンポジウムの講演要旨や、総括班会議の議事録を年内をメドにホームページに掲載することとする。領域内広報委員会は、データベース委員会との連携を考慮して、データベース小委員会としての位置づけが適当である。

⑧ 成果取りまとめ: 成果取りまとめ委員会が担当する。各年度の業績をまとめることを中心に、データベース委員会や領域内広報委員会とタイアップして、ゲノム領域と比べても遜色のない、然るべき形でしっかりしたものに仕上げる。

⑨ 10月2日に開催される「統合脳」シンポジウムのポスター原稿の最終チェックを行うとともに、高田事務局長がシンポジウム及び懇親会の概要について説明した。

## 5. 各種委員会委員の決定について

① 各種委員会の構成メンバーを最終確認した。その際、新たに倫理委員会(委員長 青木 清)を設けることが了承された。それにより、委員会は企画調整、対外、実行、成果取りまとめ、倫理の5つと、支援班の研究リソース、研究者育成・支援、データベース、及び領域内広報(データベース小委員会)の4つの計9つとなった。

② 各委員会の活動内容をまとめたものを作成し、領域代表を通して委員各位に周知したのち、丹治領域代表から各委員に正式な委嘱状を出す。8月24日に予定している支援班会議ののち、できるだけ早い時期に委員会を招集する。場合によっては、Eメールを使った委員会を先行させても良

い。

③ ホームページの立ち上げはデータベース委員会が担当するが、領域毎に開設するのではなく、「統合脳」ということで一本化する。伊佐委員長から「9 月中にホームページを開設し、理研のニューロインフォーマティクスと連携しながら、データベースの構築を図りたい」との説明があった。また、「統合脳」の名称は第1領域の略称と混同して誤解を生じやすいので、今後5領域全体をカバーする総称として、特定領域研究「統合脳」5領域を用いることが決定した。

④ 各種委員会の構成を含む、「統合脳」5領域全体の名簿を作成する。

#### 6. 平成17年度領域研究審査員候補の決定について

① 領域内及び領域外審査員候補のリストを最終確認した。特に、領域外候補については重複をできるだけ避けるように調整するとともに、女性研究者のリストアップにも配慮した。

#### 7. 16年度総括班予算の支出について

① 総括班予算として、16年度は各領域に一律350万が交付されているが、ホームページの立ち上げと10月2日に開催される「統合脳」シンポジウムの経費については、5領域が共同で負担する。とりあえず、各領域がホームページ関係に50万と、シンポジウム関係に100万ずつ負担することとする。17年度以降も、ホームページの維持や夏と冬の行事に係わる必要経費など、共通部分については同様の形で処理する。

② 残りの200万は、総括班会議や支援班会議、各種委員会の開催、あるいは10月2日のシンポジウム参加費(計画班員分)に充当する。一部は、何度も会議室を借用している順天堂大学の北澤教授に、会議室使用料を返済するために使用する。